



地域を変える

NEW

POWER!!

地域おこし協力隊

細野 達也さん



肝付町の皆様こんにちは！地域おこし協力隊の細野達也です。今回は私が所属する移住サポートセンターの仕事をご紹介します。移住サポートセンターは肝付町役場2階の企画調整課に設置され、移住希望者対応、空き家バンク運営が主な業務です。地域プロジェクトマネージャーの仲西と私の2名体制で日々奮闘しています。移住希望者対応では、日々の移住相談だけでなく、移住イベントへの出展も実施しています。直近では、9月17日に東京で行われた「ふるさと帰郷フェア」に出展しました。イベント来場者数は2万人を超え、沢山の方々にお話を伺うことができました。

しかし、こういった移住フェアで毎回思うのは、肝付町の認知度の低さです。鹿児島県に行ったことがあるという方も、大隅半島に足を運んだ事が無い方が多く、肝付町を知っていると言う人はほとんどいません。そういった現状をふまえて、肝付町とはどのような場所かを包み隠さず正直にお話しています。興味を持っていただいた方には、高山にあるお試し移住体験住宅「里山の音(ね)」の利用をおすすめし、まずは肝付町へ足を運んでいただきたいと思います。

空き家バンク運営では、空き家バンク掲載希望者様のご対応、全国各地からのお問い合わせ対応、物件内覧希望者のご案内をしています。空き家は全国的に問題となっており、今後増加していくと考えられています。そのような状況の中、肝付町では空き家バンクの掲載件数を増やし、移住希望者との空き家のマッチング事業に力を入れています。現在空き家バンクでは約50件の物件を掲載しており、今年に入ってから約20件の空き家が移住者とのマッチングに繋がっています。すぐ住めるような物件や農地付き物件は問い合わせが多い印象はありますが、空き家期間が長い物件でも「自分でDIYして直します」という方もいらっしやいますので、空き家の所有者様におかれましては、是非空き家バンクをご活用頂きたいと思えます。肝付町の空き家バンクは家財が残っていても登録可能です。何か心配事がありましたら、移住サポートセンターまでご相談ください。

これからの様々な活動を通して肝付町の事を知り、町の魅力を伝えていきたいと思えます。

地域を変える

POWER!!

地域おこし協力隊

ユディカ エルギヤントさん



米栽培挑戦と課題

4月に水田で田植えした米がやっと収穫できました。地域の方から借りている田んぼを利用して、米ともち米の栽培に挑戦しました。

稲の色ともみの状態を見て、稲刈り作業前に水を止め、バインダーで稲刈りしてからかけ干しをしました。周りの米農家の方から教えてもらいながら作業を行いました。私にとって米栽培は、初めての経験でした。

乾燥作業については日本米とタイ米のかけ干しの日数（水分測定値の14%）を比較したら、日本米は4日間でしたがタイ米は2日間でした。

また、日によっては天気が安定していない時もありますので、ブルーシートを使って天日干しも行いました。ブルーシートを使っての天日干しの方がかけ干しより早く乾燥出来ますが、地面が熱い時には水分値は9%以下になってしまった時があったので、毎日夕方に片付け作業をするのが大変でした。次回の乾燥方法はかけ干しだけにしようかなと思います。

農作物栽培の一番の課題は、害獣被害です。網やピンクリボンを使いましたが、短時間でイノシシが入って農作物を荒らし、収穫量が減り、畑で安全に作業が出来ずに残念でした。これからの対策としては電気柵の利用を検討中ですが、設備額と収穫額を再計算して判断したいと思えます。